

# 2023

京都芸術大学

## 大学院

芸術研究科（通信教育）芸術専攻 修士課程

# 授業内容紹介[科目概要]・ スクーリング日程

## I N D E X

スクーリング科目について …………… 01

## 授業科目概要

(1) 学際デザイン研究領域 ……………	02
(2) コミュニケーションデザイン領域 ……	03
(3) 文芸領域 ……………	04
(4) 芸術学・文化遺産領域 ……………	05
(5) 写真・映像領域 ……………	07
(6) 美術・工芸領域 日本画分野 ……………	08
(7) 美術・工芸領域 洋画分野 ……………	09
(8) 美術・工芸領域 工芸デザイン分野 …	10
(9) 専攻共通（全領域） ……………	11
(10) 自由選択（全領域） ……………	13

# スクーリング科目について

## 1.学習の流れ

各科目で異なります。主に以下の受講方法があります。次ページ以降の各科目「学習の流れ」の内容と照らし合わせてご確認ください。

### ①動画→初回提出→中間講評→最終提出

オンデマンド動画教材またはリアルタイムでオンライン授業を受講後、初回提出があります。教員からの全体講評(中間講評)をリアルタイム配信で視聴し、全体講評をふまえて最終成果に集約します。この流れを3か月間で履修します。

※リアルタイム配信のオンライン授業は特段の理由がない限り、指定の日時に出席が必須です。



### ②指定日にオンライン授業を受講

指定日に対面授業を受講します。必修科目はオンライン(Zoom等)、オプション科目はキャンパス等の会場で受講します。特に指定がない限り各日1～V講時(9:30～17:40)での開講です。

### ③動画(15章)・テキスト学習→章末テスト→レポート提出→全体講評 ※「芸術史講義」のみ該当

動画教材とテキストを組み合わせる学習します。全15章の動画を視聴し終わったら、科目によってレポートを提出し、「全体講評」動画を視聴することですべての授業が終了します。レポート試験のボリュームは科目により異なりますが、800～1,600字程度です。



科目により、「春期・秋期」または「夏期・冬期」の開講です。前期(春期・夏期)に履修を開始した科目で単位修得に至らなかった場合は、後期(秋期・冬期)に履修を継続できます。

春期			夏期			秋期			冬期		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	レポート	全体講評		レポート	全体講評		レポート	全体講評		レポート	全体講評
	5/21～ 5/28	6/13～ 6/20		8/21～ 8/28	9/13～ 9/20		11/21～ 11/28	12/13～ 12/20		2/21～ 2/28	3/13～ 3/20

## 2.受講科目の選び方

同一科目で複数日程がある場合は、いずれか1つの会場・日程を選択してください。シラバス等で指定がなければ、どの会場・日程を選択しても構いません。

## 3.スクーリング開講時間

講時	授業時間
I 講時	9:30～10:50
II 講時	11:00～12:20
III 講時	13:20～14:40
IV 講時	14:50～16:10
V 講時	16:20～17:40

# (1)学際デザイン研究領域

リアルタイムでの受講は不要です。研究科目と演習科目の一部のみ、リアルタイムでのプレゼンテーションと講評が行われます(入学後に日時をお知らせします)。

科目名	内容	学習の流れ	開講期
学際デザイン特論 I -1	デザインという概念の変遷を、社会とデザインの関わりや、デザイン教育の歴史からひもとく。また、さまざまなデザイン思考について、その成立の背景およびプロセスを探る。	動画学習 ↓ 個人/グループ ワーク ↓ グループ ディスカッション ↓ レポート	春期(4~6月)
学際デザイン特論 I -2	デザインを構想するための調査法を多面的に取り扱い、研究の基礎として位置づけ、質的調査法・地域デザイン調査法の手法について、課題による実践を通して学ぶ。		夏期(7~9月)
学際デザイン特論 II -1	伝統文化の定義や日本文化の大きな流れを知るとともに、形式分析や文化的分析など、ものごとのとらえ方について学ぶ。		春期(4~6月)
学際デザイン特論 II -2	論文の構造をはじめ、文献のリサーチ方法や図書館の利用法、論文の分析方法について学び、今後の研究の基礎とする。		夏期(7~9月)
学際デザイン演習 I	個人のビジョンを具体化するプロセスを、デザイン思考によって実践。実現したい世界を形にするための、視覚化・プロトタイプへの技法を学ぶ。		春期(4~6月)~ 夏期(7~9月)
学際デザイン演習 II	協働による課題解決のプロセスを、グループワークからデザイン思考によって実践。社会や地域の課題を提案するための力を養う。		秋期(10~12月)~ 冬期(1~3月)
学際デザイン演習 III	「歴史的景観」や「聖地巡礼(ツーリズム)」を題材に、伝統文化に基づく文化資産を個人でリサーチ。それらを継続・発展させるための思考や議論を行う。		春期(4~6月)~ 夏期(7~9月)
学際デザイン演習 IV	「職人技術の継承」「墓・葬送儀礼」を題材に、伝統文化に基づく文化資産をグループワークでリサーチ。それらを継続・発展させるための思考や議論を行う。		秋期(10~12月)~ 冬期(1~3月)
学際デザイン研究	「新しい価値を創造する(早川克美ゼミ)」「歴史ある対象を今に活かす(野村朋弘ゼミ)」の方向性からいずれかを選び、グループワークで課題を設定。解決へのプロセスを実践することで、価値の可視化を図る。		通年(4月~翌年3月)

## (2) コミュニケーションデザイン領域

科目名	内容	学習の流れ	開講日時
コミュニケーションデザイン特論Ⅰ	「コミュニケーションの過去から未来」 急速なメディアの変化によって生み出された、コミュニケーションデザインの考え方。その歴史的背景を紐解きながらコミュニケーションモデルの変革、ソーシャルグッド思考のムーブメントなど、コミュニケーションの時代背景を学ぶ。		・制作アドバイス 4/16 (日) Ⅲ～Ⅴ講時 ・中間講評 5/20 (土) Ⅲ～Ⅴ講時 ・全体講評 7/1 (土) Ⅲ～Ⅴ講時
コミュニケーションデザイン特論Ⅱ	「コミュニケーションのデザイン手法」 コミュニケーションデザイン戦略はどのように生み出されるのか、コンセンサスブリーフ、インサイト、プロポジションなどの抽出方法や、世界のコミュニケーションデザイン事例を探りながら、優れたアイデアにたどり着く方法論を学ぶ。		・制作アドバイス 5/6 (土) Ⅲ～Ⅴ講時 ・中間講評 6/3 (土) Ⅲ～Ⅴ講時 ・全体講評 7/15 (土) Ⅲ～Ⅴ講時
コミュニケーションデザイン特論Ⅲ	「社会を見つめるデザインの視点」 それぞれの専門領域において、デザインがどう社会や生活者とつながっているのか、コミュニケーションデザイン戦略や表現がどのように創られているのか、各分野の担当教員が、様々な制作現場における事例と体験談を講義、課題をもとに思考を磨く。  [グラフィックデザイン分野] デザインの歴史、近年のグッドデザイン賞の潮流、デザインすることの意味について学ぶ。 [映像デザイン分野] コミュニケーションデザインにおける映像の価値、時代とともに変わり続ける映像コンテンツについて学ぶ。 [空間デザイン分野] 人々の行動変容を促す空間デザインの変革を様々な角度から理解し、コミュニティ創出のための場づくりについて学ぶ。	<基本の流れ>  動画 ↓ 制作アドバイス ↓ 初回提出 ↓ 中間講評 ↓ 最終提出 ↓ 全体講評	・制作アドバイス 6/10 (土) Ⅲ～Ⅴ講時 ・中間講評 7/8 (土) Ⅲ～Ⅴ講時 ・全体講評 9/2 (土) Ⅲ～Ⅴ講時
コミュニケーションデザイン特論Ⅳ	「社会に機能するデザインのカたち」 各分野の担当教員が、課題(ミッション)の見つけ方やアプローチ、コミュニケーションデザインにおけるストーリーの作り方など、誰をも魅了するアイデアを生み出すまでの、実践的な考え方と手法を講義、課題をもとに表現力を身につける。  [グラフィックデザイン分野] 多様な視点を身に付け、ブランドや生活者のストーリーを伝えるためのデザインを可視化する。 [映像デザイン分野] 映像の新しい考え方、創り方を考え、実践し、社会を変える映像の話法を身につける。 [空間デザイン分野] 自然と人の共存というテーマで空間デザインを考え、未成熟な空間領域を対象としたデザイン提案を行う力をつける。		・制作アドバイス 6/24 (土) Ⅲ～Ⅴ講時 ・中間講評 7/16 (日) Ⅲ～Ⅴ講時 ・全体講評 9/16 (土) Ⅲ～Ⅴ講時
コミュニケーションデザイン演習	演習A1「自身の課題を見つける個人ワーク」 各分野、個人ワークで社会問題等をリサーチし、自身の表現テーマやコンセプトを固めることを目的とする。  演習A2「仲間と課題を共有するグループワーク」 分野をまたぎ、グループワークで国内外のコミュニケーションデザインをリサーチ・レポートし、アイデア力を養う。  演習B1「自身の課題をカタチにする個人ワーク」 コンセンサスブリーフをもとに、各個人の専門分野で、自身の課題とテーマを具体的な表現に落とし込み表現していく。  演習B2「社会と課題をつなぐグループワーク」 プレゼンテーションに向け、コミュニケーションデザインとそれぞれの分野表現をまとめ、制作し、グループで発表する。		・制作アドバイス① 9/2 (土) Ⅲ～Ⅴ講時 ・制作アドバイス② 10/7 (土) Ⅲ～Ⅴ講時 ・中間講評① 11/11 (土) Ⅲ～Ⅴ講時 ・中間講評② 12/16 (土) Ⅲ～Ⅴ講時 ・中間講評③ 1/20 (土) Ⅲ～Ⅴ講時 ・最終プレゼン 2/3 (土) Ⅲ～Ⅴ講時 ・全体講評 2/24 (土) Ⅲ～Ⅴ講時
コミュニケーションデザイン研究	社会と生活者の関係の中に、課題(ミッション)を抽出し考察、ターゲットインサイトとブランドプロポジションを創出し、コミュニケーションデザイン戦略のもと、各自が自身の領域の中でアイデアをかたちにしていきます。学内でのプレゼンテーション、学会での発表、各デザインコンペへの参加を目標とする。		— (2024年度以降開講)

### (3) 文芸領域

科目名	内容	学習の流れ	中間講評日時
文芸特論Ⅰ	[小説創作系] 「教員によるブックリスト(主に純文学系)」をもとに、書くために読み、幅広く学ぶ。	動画 ↓ 初回提出 ↓ 中間講評 ↓ 最終提出	11/18(土)Ⅳ～Ⅴ講時
文芸特論Ⅱ	[小説創作系] 「教員によるブックリスト(主にエンタテインメント小説系)」をもとに、書くために読み、幅広く学ぶ。		5/21(日)Ⅰ～Ⅱ講時
文芸特論Ⅲ	[小説創作系] 物語の原理と構造を、映画などの他ジャンルから幅広く学ぶ。		8/19(土)Ⅰ～Ⅱ講時
文芸特論Ⅳ	[小説創作系] エッセイやコラム、取材記事など非フィクション系のテキスト執筆について学ぶ。		5/20(土)Ⅳ～Ⅴ講時
文芸特論Ⅴ	[小説創作および編集制作系] 物語の原理と構造を他ジャンルから幅広く学び、多様なメディアに通じる編集の基礎と考え方を事例から学ぶ。		2024/2/18(日)Ⅰ～Ⅱ講時
文芸特論Ⅵ	[編集制作系] 多様なメディアに通じる編集の基礎と考え方を事例から学ぶ。		11/18(土)Ⅰ～Ⅱ講時
文芸演習	[小説創作ゼミ] 文芸領域における物語創作の専門的な学びに際して、これらを習得し自らのものとするため、通年での持続的指導と創作・制作活動を通じて、幅広い土台作り/基礎固めを行う。また、物語創作の専門的な学びを、より確かなものとしてゆく。まずは超短編など、短い物語から始めて、ひとつの物語を最初から最後まで書く「成功体験」を得たうえで、徐々に長いストーリーにチャレンジする態勢を整えていく。	指定日に受講 (8日間)	[小説創作ゼミ1(主として純文学系)] 4/15(土)、5/13(土)、6/17(土)、 7/15(土)、10/28(土)、11/11(土)、 12/23(土)、2024/1/20(土)
	[編集制作ゼミ] 文芸領域における編集制作の専門的な学びに際して、これらを習得し自らのものとするため、通年での持続的指導と創作・制作活動を通じて、幅広い土台作り/基礎固めを行う。また、編集制作などの専門的な学びを、より確かなものとしていく。1年目(演習)は基礎的なワーク、2年目(研究)では実際に冊子を編集制作します。加えて、コピーライティングのトレーニングも通年で行う。	指定日に受講 (6日間)	[小説創作ゼミ2(主としてエンターテインメント小説系)] 4/15(土)、5/13(土)、7/15(土)、 10/14(土)、12/23(土)、 2024/1/20(土)
文芸研究	年間を通じ、「修了制作の計画書提出～作品の構想～執筆～中間総括～第一稿完成～改稿～修了制作審査(口頭試問)および合評」といったプロセスを経て、修了制作の完成までの持続的な指導を受ける。最終成果物(修了制作)は、「作品※」と「制作研究ノート(4,000字程度)」の2点。 ※「作品」の例:小説40,000字程度(400字詰原稿用紙換算で100枚程度)、ノンフィクション各種ジャンル20,000字程度(400字詰原稿用紙換算で50枚程度)	指定日に受講	— (2024年度以降開講)

## (4) 芸術学・文化遺産領域

科目名	内容	学習の流れ	開講日
芸術学特論Ⅰ	担当教員の研究内容を反映した講義。芸術学分野の専門的な講義を通じて、各自の視野・知見を広げるとともに、研究テーマの設定、調査・分析、論証の手法を修得する。 ※芸術学分野のみ履修可。4科目から2科目を選択必修。	指定日に受講 (2日間) ↓ 初回提出 ↓ 中間講評動画 視聴 (オンデマンド 配信) ↓ 最終提出	10/28(土)～10/29(日)
芸術学特論Ⅱ			9/30(土)～10/1(日)
芸術学特論Ⅲ			4/29(土)～4/30(日)
芸術学特論Ⅳ			6/3(土)～6/4(日)
文化遺産特論Ⅰ	担当教員の研究内容を反映した講義。文化遺産分野の専門的な講義を通じて、各自の視野・知見を広げるとともに、研究テーマの設定、調査・分析、論証の手法を修得する。 ※文化遺産分野のみ履修可。4科目から2科目を選択必修。	指定日に受講 (7日間)	11/4(土)～11/5(日)
文化遺産特論Ⅱ			8/26(土)～8/27(日)
文化遺産特論Ⅲ			10/28(土)～10/29(日)
文化遺産特論Ⅳ			9/23(土)～9/24(日)
芸術文化演習	完全オンラインによるゼミで各自が発表する。研究テーマに関する先行研究を丁寧に振り返り、残された課題の中から問題を提起し、リサーチと分析を繰り返しつつ「中間報告書1・2」を作成して修士論文の準備を万全にする。担当教員の研究指導と院生同士のディスカッションによって質の高い研究を目指す。	指定日に受講 (7日間)	<b>【芸術学分野】</b> [芸術理論・西洋美術史ゼミ] 4/22(土)、5/20(土)、6/24(土)、 7/15(土)、10/7(土)、11/18(土)、 12/16(土) [日本・東洋美術史ゼミ] 4/22(土)、5/20(土)、6/17(土)、 7/15(土)、10/7(土)、11/18(土)、 12/16(土) <b>【文化遺産分野】</b> [歴史遺産ゼミ] 4/15(土)、5/20(土)、6/24(土)、 7/15(土)、10/14(土)、11/18(土)、 12/16(土) [芸能史・伝統文化ゼミ] 4/22(土)、5/20(土)、6/24(土)、 7/15(土)、10/7(土)、11/18(土)、 12/16(土)
芸術文化研究	引き続き完全オンラインでゼミ発表をする。演習科目の研究成果に基づき、リサーチと分析をさらに深め、独自の着眼点で研究テーマを掘り下げる。修士論文の執筆を本格的に開始し、ゼミの研究指導と「中間報告書3・4」のフィードバックをふまえて、その研究を進める。最終成果物(修士論文)は、論文または研究報告書、活動報告書として32,000～40,000字でまとめ上げる。	指定日に受講	— (2024年度以降開講)

芸術学・文化遺産領域 オプション科目 ※指定日に受講(2日間)

科目名	内容	開講地	開講日時
芸術文化研究指導Ⅰ	完全オンラインのゼミを補う対面によるゼミごとのエクスカージョンの授業(学外研修)。現地を見学しながら研究の視点を養い、担当教員および院生同士の交流も深める。	【芸術学分野】 [芸術理論・西洋美術史ゼミ]東京 [日本・東洋美術史ゼミ]東京  【文化遺産分野】 [歴史遺産ゼミ]京都 [芸能史・伝統文化ゼミ]京都 ※開講地は、見学先等の関係で一部変更になる可能性があります。	[芸術理論・西洋美術史ゼミ] 6/10(土)~6/11(日) [日本・東洋美術史ゼミ] 5/6(土)~5/7(日) [歴史遺産ゼミ] 6/3(土)~6/4(日) [芸能史・伝統文化ゼミ] 5/13(土)~5/14(日)
芸術文化研究指導Ⅱ	完全オンラインのゼミを補う対面によるゼミごとの研究発表。学外より特別講師を招聘し、指導担当教員とあわせて研究指導を受け、さらに質の高い研究を目指す。	【芸術学分野】 [芸術理論・西洋美術史ゼミ]東京 [日本・東洋美術史ゼミ]東京  【文化遺産分野】 [歴史遺産ゼミ]京都 [芸能史・伝統文化ゼミ]京都	[芸術理論・西洋美術史ゼミ] 9/16(土)~9/17(日) [日本・東洋美術史ゼミ] 9/2(土)~9/3(日) [歴史遺産ゼミ] 9/2(土)~9/3(日) [芸能史・伝統文化ゼミ] 8/5(土)~8/6(日)
芸術文化研究指導Ⅲ	完全オンラインのゼミを補う対面によるゼミごとの研究発表。学外より特別講師を招聘し、指導担当教員とあわせて研究指導を受け、さらに質の高い研究を目指す。	【芸術学分野】 [芸術理論・西洋美術史ゼミ]東京 [日本・東洋美術史ゼミ]東京  【文化遺産分野】 [歴史遺産ゼミ]京都 [芸能史・伝統文化ゼミ]京都	[芸術理論・西洋美術史ゼミ] 2024/2/3(土)~2/4(日) [日本・東洋美術史ゼミ] 2024/2/10(土)~2/11(日) [歴史遺産ゼミ] 2024/1/20(土)~1/21(日) [芸能史・伝統文化ゼミ] 2024/1/20(土)~1/21(日)
芸術文化研究指導Ⅳ	完全オンラインのゼミを補う対面によるゼミごとのエクスカージョンの授業(学外研修)。現地を見学しながら研究の視点を養い、担当教員および院生同士の交流も深める。	【芸術学分野】 [芸術理論・西洋美術史ゼミ]東京 [日本・東洋美術史ゼミ]東京  【文化遺産分野】 [歴史遺産ゼミ]京都 [芸能史・伝統文化ゼミ]京都 ※開講地は、見学先等の関係で一部変更になる可能性があります。	— (2024年度以降開講)
芸術文化研究指導Ⅴ	完全オンラインのゼミを補う対面によるゼミごとの研究発表。学外より特別講師を招聘し、指導担当教員とあわせて研究指導を受け、さらに質の高い研究を目指す。	【芸術学分野】 [芸術理論・西洋美術史ゼミ]東京 [日本・東洋美術史ゼミ]東京  【文化遺産分野】 [歴史遺産ゼミ]京都 [芸能史・伝統文化ゼミ]京都	— (2024年度以降開講)

## (5)写真・映像領域

科目名	内容	学習の流れ	中間講評日時
写真・映像特論Ⅰ	200年に及ぶ歴史を持つ写真映像の多様性と奥深さを体感し、各人に応じた表現や社会との関わりを考えてゆく。特論Ⅰでは19世紀から20世紀にかけての写真映像の流れをたどり、その遺産と記録を紐解きながら個々の可能性を広げていく。	動画 ↓ 初回提出 ↓ 中間講評 ↓ 最終提出	5/20(土)Ⅲ～Ⅴ講時
写真・映像特論Ⅱ	世界各地の写真映像の特徴や時代ごとの表現特性に着目しながら、個々の研究制作をより大きな文脈のなかで再考する。特論Ⅱでは20世紀から21世紀にかけての写真映像の流れを分析し、その核心を導きながら各自の研究制作へ結びつけていく。		8/19(土)Ⅲ～Ⅴ講時

科目名	内容	学習の流れ	開講日
写真・映像演習	研究報告、作品プレゼンテーション、ライブ講評、個別指導、グループディスカッション等を通して多様な視点を身につけ、自己のテーマの方向性と現実性を絞りこんでいく。ポスト・ベッヒャー派の新たな凝視のスタイルやアメリカのフィクショナルドキュメンタリーの手法、デジタル写真と映画の融合といった21世紀写真の新動向をカバーする授業で得られる知見をもとに、自作の肉付けを行い、より実りの多い内容へとふくらませる。	指定日に受講 (演習6日間)	4/8(土)、5/27(土)、 7/1(土)、9/30(土)、 11/18(土)、2024/1/13(土)
写真・映像研究	写真・映像は自発的行為であり、決められたモデルや手本があり、その通りに撮れば良い写真・映像になる訳ではない。写真・映像を撮る理由とは個人に深く根ざした何ものかを揺り動かすことから始まることを忘れないようにしたい。自己の設定したテーマを具体的作品に落としこむ際のさまざまな問題点へしっかり目を向け、テーマの有効性の確認や観賞者の視点の導入、作品タイトルの再考やエッジのつけ方など、ポイントごとにチェックを受けながら最終形の改良を行い、ポートフォリオや論文のかたちで発表する。	指定日に受講	— (2024年度以降開講)

## 写真・映像領域 オプション科目 ※指定日に受講(1日間または2日間)

科目名	内容	開講地	開講日時
写真・映像研究指導Ⅰ	オンラインでは伝わりにくい細かなニュアンスやアドバイスを対面指導で行い、実際のプリントや作品を確認しながら、その展示構成や編集方針に個別に対応していく。	東京	5/6(土)
写真・映像研究指導Ⅱ	オンラインでは伝わりにくい細かなニュアンスやアドバイスを対面指導で行い、実際のプリントや作品を確認しながら、その展示構成や編集方針に個別に対応していく。	京都	6/17(土)
写真・映像研究指導Ⅲ	写真映像の実践実験を訪ねるフォトツアー&エクスカーション。各地で行われる写真祭や写真プロジェクトへの参加、地元の写真家やディレクターによる特別講義、写真美術館や写真文化施設の調査、フィールドワークや実地撮影を通し、実践力と調査力を身につけ、各自の研究制作へ結びつける。	学外	10/28(土)～10/29(日)

## (6)美術・工芸領域 日本画分野

科目名	内容	学習の流れ	中間講評日時
日本画特論Ⅰ	「日本画における絵画要素を考える」 日本画を描くにあたっての重要な要素として、写生の考え方や作品コンセプト、また素材についても認識し、さらにさまざまな表現要素について考えることで、自己の制作の現状を検証し、作品の深化に結びつける。	動画 ↓ 初回提出 ↓ 中間講評 ↓ 最終提出	8/19(土)Ⅳ～Ⅴ講時
日本画特論Ⅱ	「日本画とは何なのかー伝わってきたものは何なのかー」 「日本画」と呼ばれるものは何なのか。その答えを古代の絵画に遡って振り返っていく。古い作品などの紹介や寺院の彩色調査・復元作業を通して、今日の私たちとの絵画や作品との関わり合いを探っていく。		11/19(日)Ⅳ～Ⅴ講時

科目名	内容	学習の流れ	開講日
美術・工芸演習(日本画)	日本画独自の伝統技法を学び、実習を通して、現代に見合った制作技法を思索し、自己の絵画の方向性を模索する。目標を高く定めながらも、常に日本画の基本である写生に立ち戻り、自然の法則に目を凝らしながら絵画に必要な要素を体感、具現化していく。 ※模写による古典技法表現の研究などの専門的な知識も選択可能。	指定日に受講 (8日間)	4/22(土)、5/20(土)、 6/24(土)、7/8(土)、 10/7(土)、11/18(土)、 12/23(土)、2024/1/13(土)
美術・工芸研究(日本画)	修了制作作品の完成に向けて、今まで積み重ねてきたものをもとに絵画の幅と深さを追求するとともに、自身を解放し、より自由な表現を実践するための研究を進める。作品密度を上げるために、教員や他学生とのディスカッションを繰り返しながら、内容・材料・技術的な面も強化しつつ修了制作を完成させる。最終成果物(修了制作)は作品と修士論文の2点。 ※1年次より模写制作を研究した場合、模写研究による修了制作も可能。	指定日に受講	— (2024年度以降開講)

## 日本画分野 オプション科目 ※指定日に受講(2日間)

科目名	内容	開講地	開講日時
日本画研究指導Ⅰ	絹本と紙本の裏打ち実習と実制作の指導を行う。	京都	7/15(土)～7/16(日)
日本画研究指導Ⅱ	素材研究として麻布、綿布の貼り方の実習と実制作の指導を行う。	京都	11/25(土)～11/26(日)
日本画研究指導Ⅲ	素材研究として板の下地作り実習と実制作の指導を行う。	京都	2024/2/24(土)～2/25(日)
日本画研究指導Ⅳ	日本画研究指導Ⅰと同じ内容。	京都	— (2024年度以降開講)
日本画研究指導Ⅴ	日本画研究指導Ⅱと同じ内容。	京都	— (2024年度以降開講)
日本画研究指導Ⅵ	日本画研究指導Ⅲと同じ内容。	京都	— (2024年度以降開講)

## (7)美術・工芸領域 洋画分野

科目名	内容	学習の流れ	中間講評日時
洋画特論Ⅰ	「絵画史」 この時代に生き絵画創作の意義を考えるために必要な絵画史の知識を獲得することを目指した講義。各自が何を創作したいか、実現したい絵画とは何かを考えるために知っておくべき絵画史を学ぶ。西洋美術史、日本美術史を概観し、絵画の役割や成り立ちを考察する。 また、作家を選び自身の制作と関連づけてレポートにまとめる。	動画 ↓ 初回提出 ↓ 中間講評 ↓ 最終提出	5/20(土)Ⅳ～Ⅴ講時
洋画特論Ⅱ	「絵画素材」 絵画創作に使用されてきた素材に着目し、物質的な側面から各自の絵画を確認する。特論Ⅰ、Ⅱで自身の制作を今日の社会環境に位置づけ、考察することによって自作に対する批評眼を養い、創作テーマへの新たな探究心を育む。また絵画作品の材料と表現について講義を視聴したうえで、自作での色彩の活用について考察しレポートにまとめる。		8/20(日)Ⅳ～Ⅴ講時

科目名	内容	学習の流れ	開講日
美術・工芸演習(洋画)	各自の制作の立ち位置を探ることから始める。これまでの経験で培った表現手法やテーマを再確認する。さらに発想や構想を深めるためのドローイングや試作を実践し、テーマの確立や展開を目指す。想像の中にあるイメージを具体化させることや表現素材の研究を繰り返すことで新たな自身の創作を探究する。	指定日に受講 (8日間)	4/22(土)、5/27(土)、 6/24(土)、7/29(土)、 9/30(土)、11/4(土)、 12/2(土)、2024/1/13(土)
美術・工芸研究(洋画)	修了に向けての創作とその成り立ちについての背景を修士論文としてまとめる。最終成果物は作品、ポートフォリオ、修士論文の3点。これによって将来に向けての新たな視点の発見や目標設定につなげる。	指定日に受講	— (2024年度以降開講予定)

## 洋画分野 オプション科目 ※指定日に受講(2日間)

科目名	内容	開講地	開講日時
洋画研究指導Ⅰ	洋画領域での表現技術を学ぶための素材演習として、水性キャンバス(石膏地)の作成と、グリザイユ技法の基礎的な表現方法を学ぶ材料実習。	京都	6/3(土)～6/4(日)
洋画研究指導Ⅱ	自主制作を進める中での問題点、つまりテーマの発見や探究に関わる疑問や問題解決を、各自作品を持参して指導する。制作の方向性やコンセプトメイクを指導する。	京都	11/11(土)～11/12(日)
洋画研究指導Ⅲ	主に修了制作の実作指導を作品を通して行う。具体的な制作の方向性について、展開や可能性についての指導が中心。	京都	— (2024年度以降開講予定)
洋画研究指導Ⅳ	修了作品の仕上げに向けての指導と修了後の発信やポートフォリオのまとめ方などプレゼン方法の指導。	京都	— (2024年度以降開講予定)

## (8)美術・工芸領域 工芸デザイン分野

科目名	内容	学習の流れ	中間講評日時
工芸デザイン特論Ⅰ	「工芸をほぐす」 既存の工芸観をとさほぐし、社会的・心理的な切り口等も含めて「作って暮らす」ことの意義を再考する。さまざまな活動や制作現場の動画視聴、双方向の討議を経て学びを深める。	動画 ↓ 初回提出	5/21(日)Ⅰ～Ⅱ講時
工芸デザイン特論Ⅱ	「工芸をほりさげる」 柔軟な視野を基盤にしたうえで、それぞれの素材や地域に即した手工のあり方を模索する。各地の情報が集まるオンライン学習環境のメリットを活かし学生間での交流や、地域密着・地域発信型の動画教材を活用する。	中間講評 ↓ 最終提出	11/18(土)Ⅰ～Ⅱ講時

科目名	内容	学習の流れ	開講日
美術・工芸演習 (工芸デザイン)	「素材と技術の体験」 オンライン授業における素材体験を補うための基礎課題。共通素材の加工体験のほか、お気に入りの素材を用いた小品を学生間で交換して相互批評などを通して、素材への向き合い方、生活への取り込み方を学ぶ。 「グループディスカッション」 工芸デザインへの思考を深めるにはリサーチは欠かせない。日本各地にある優れたモノ(伝統工芸、民芸品、手芸、雑貨、道具、民具、祭事品等)へのまなざしを鍛え、グループディスカッションを通して語る方法を身につける。 「思考の飛躍、再構築」 ともしれば「こだわりの」「職人気質の」思考へと先鋭化しやすい工芸制作のあり方を再検討し、身の回りの工芸「的」なものも含めて対象にしたリサーチ課題、およびその相互検証を行う。 「社会との接点」 少量生産品ならではのメッセージの発信方法やブランディング、販売等について、実践経験を持つ講師によるオンラインレクチャーを視聴し、自身の活動力の素地を養う。	指定日に受講 (演習10日間)	4/15(土)、5/6(土)、 6/3(土)、7/8(土)、8/5(土)、 10/7(土)、11/4(土)、 12/9(土)、2024/1/13(土)、 2024/2/10(土)
美術・工芸研究 (工芸デザイン)	「工芸デザインの新たな地平へ」 これまでに得た情報や知識をもとに自らの研究テーマを定め、研究・制作を深める。「制作主体」「研究主体」のいずれかを選択し、教員や他学生とのディスカッションを繰り返しながら、深さと広さを兼ね備えた工芸デザインの発信力の獲得を目指す。最終成果物(修了制作)は「制作主体」の場合、作品本体に関するデータと修士論文の2点、「研究主体」の場合、内容を視覚化した資料ファイルと修士論文の2点。	指定日に受講	— (2024年度以降開講)

## 工芸デザイン分野 オプション科目 ※指定日に受講(2日間)

科目名	内容	開講地	開講日時
工芸デザイン研究指導Ⅰ	現地研修(対面/施設見学と植物染め体験) 「武田薬品京都薬用植物園」での見学と、身近にある素材の加工法を通して、考察したことを作品とともに発表する。また、京都市内で活躍する作家・工房・ギャラリーを見学し、自身の卒業後の活動にどのように活かそうか考察する(授業後レポートあり)。	京都	7/22(土)～7/23(日)
工芸デザイン研究指導Ⅱ	現地研修(対面/施設見学と東北希少工芸材体験) 東北の希少工芸材の一つ「埋もれ木」の素材感に触れ、地域的・時代的背景や魅力の伝え方等について考え、発表する。また、地域の文化事業を牽引してきたせんだいメディアテークのこれまでの活動から、地域アーカイブについて考察する(授業後レポートあり)。	仙台	9/2(土)～9/3(日)
工芸デザイン研究指導Ⅲ	制作・研究内容の指導を行う。	未定	— (2024年度以降開講予定)
工芸デザイン研究指導Ⅳ	制作・研究内容の指導を行う。	未定	— (2024年度以降開講予定)

## (9) 専攻共通(全領域)

科目名	内容	学習の流れ	中間講評日時
芸術文化論特論Ⅰ	日本の芸術文化を広い視野から概観するとともに、大学院生の問題意識の共有化を図ることを意図した必修科目である。芸術に関し、様々な地域・時代・ジャンルを越えた主題を中心に展開していく。適宜、学内外の研究者、作家等をゲストとして招聴し、講義・ディスカッションを通して問題発見、批評、分析、論述能力の伸長を期す。	動画 ↓ 初回提出 ↓ 中間講評 ↓ 最終提出	オンデマンドで一定期間配信
芸術文化論特論Ⅱ	日本の芸術文化を広い視野から概観するとともに、大学院生の問題意識の共有化を図ることを意図した必修科目である。芸術に関し、様々な地域・時代・ジャンルを越えた主題を中心に展開していく。適宜、学内外の研究者、作家等をゲストとして招聴し、講義・ディスカッションを通して問題発見、批評、分析、論述能力の伸長を期す。		
芸術原論Ⅰ	【思想としての芸術】 思想(とくに美学)の歴史と芸術(アート&デザイン)の歴史を概括しつつ、比較論(比較文明・比較文化・比較思想・比較芸術)的な視点も導入しながら、個々のジャンルを超えて芸術を論じる。すべての学生が前提として身につける議論の土台を獲得することを目的とする。		
芸術原論Ⅱ	【文化財保存修復の視点からみた美術作品】 多くの伝世されてきた文化財は明確な意志をもってメンテナンスと修復を繰り返して残されてきた。「もの」としての文化財の辿ってきた歴史の理解と、その背景にある価値観の変化や制(製)作技術、伝承するための技術などを考察する。		
芸術原論Ⅲ	【日本絵画史】 日本美術のなかの重要なジャンルのひとつである風俗画について考える。まず、美術史用語としての「風俗画」がどのように使用されているかという点についての理解をして、その後、具体的な作例に即して、16世紀から18世紀にいたる絵画史の展開を理解することを目的とする。	動画 ↓ 最終提出	入学後にお知らせします (必修科目ではありません)
芸術原論Ⅳ	【美術を空間との関係から考える】 美術作品はそれが置かれた空間との関係を軽視することはできない。授業では、14世紀から20世紀までの西洋と日本を中心に、美術と空間との関係を領域横断的に検討し、空間全体としてのメッセージを読み解いてゆく。		
芸術原論Ⅴ	【比較文化論を英語で読む】 グローバルな視野の中で、日本の文化・芸術・文学をどう捉えることができるか。客観的な視点を獲得するために、英語で書かれた比較文化論・日本文化論を読み解く。		
芸術原論Ⅵ	【芸術と社会】 芸術は、感動や共感を生み人を幸せにする力がある一方で、プロパガンダに利用されることもある。社会における芸術の在り方を学び、広い視野で物事を捉える力を身につけることで自身の表現の幅を増やし、制作や研究へ生かしていくことを目的とする。		

## (9) 専攻共通(全領域)

科目名	内容	学習の流れ	中間講評日時
芸術環境原論Ⅰ	【サステナブルデザイン論】 デザイン研究において今日避けて通れないテーマとして、サステナブルデザインがある。サステナブルデザインを「人と環境に配慮したモノや社会システムの創出活動」かつ「社会の発展と調和した活動」と定義し、その基本的な構成要素を学ぶ。	動画 ↓ 初回提出 ↓ 中間講評 ↓ 最終提出	入学後にお知らせします (必修科目ではありません)
芸術環境原論Ⅱ	【建築と都市空間】 さまざまな建築空間の事例に学びつつ、都市や地域の情報抽出とその表現という作業を通じて、自然環境や社会的な関係、また歴史の厚みや生活の中で経験される様々な感覚を空間的に表現し、環境として構想する力を獲得する。		
芸術環境原論Ⅲ	【地域と文化創生】 文化創生のための方法は、各地の風土や社会的条件といったさまざまな環境によって適切なものをその場で構築していかなければならない。本科目では、さまざまな事例を紹介しつつ、現場から何をリサーチ何を糸口にして地域文化をデザインするのかを考察する。		
芸術環境原論Ⅳ	【メディアコンテンツ論】 従来、マンガ、アニメ、ドラマといったジャンルは大衆文化として括られ、絵画や彫刻、オペラといった社会的に評価を確立した芸術ジャンルとは受容者層も制作者層も異にしているとみなされてきた。しかし昨今の芸術をめぐる環境は大きく変わり、本科目でも、そうした区分にとらわれないメディアコンテンツのもたらす新たな文化情況について考察する。		
芸術環境原論Ⅴ	【芸術の場所論】 本科目では、芸術活動における場所性の問題を考察する。古代以来、今日まで、芸術活動がどのように土地を表現してきたのか、またそれがどのような複合的な要請に応えるものだったのかを、主に建築や庭園を例にとりつつ考察する。		
芸術環境原論Ⅵ	【工芸デザイン論】 ウィリアム・モリスの活動を起点とする近代工芸運動、デザイン運動は、18世紀半ばにイギリスで始まった産業革命以降の社会を背景として展開された。近代デザイン史の上では「工芸」から「デザイン」へという大きな流れとして捉えられるこの展開を、本講義では「工芸」の側から捉え直し、これらの領域における現代の課題、問題を探っていきたい。		
制作行為原論Ⅰ	【配信の時代の著作権】 今日、芸術作品の受容が最も頻繁に行われているのは放送やインターネット上であろう。そこでは従来の展示や出版には見られなかったさまざまな著作権上の問題が生じているが、それらの問題が何を制作にもたらすのかを実例に沿いつつ論ずる。	動画 ↓ 初回提出 ↓ 中間講評 ↓ 最終提出	11/18(土)Ⅰ～Ⅱ講時
制作行為原論Ⅱ	【絵画技法材料学】 絵画を網膜的な画像として見るだけではなく、それを支える物質的な基盤としての顔料、定着剤、支持体といったものに注目し、それらがいかんして人間の芸術的感性や表現と関わるのかを考察する。		11/18(土)Ⅳ～Ⅴ講時
制作行為原論Ⅲ	【AIと芸術制作】 AI(人工知能)の近年の進歩は著しく、AIが芸術の領域でもさまざまに用いられているようになってきた。本科目ではAIと芸術について、AIをどのように制作に利用するかという問題だけでなく、AIがどのように人間の創造性について問題提起をするのかという点を考察する。		11/19(日)Ⅳ～Ⅴ講時
制作行為原論Ⅳ	【演劇論】 演劇はきわめて古く、かつ広汎に認められる芸術活動であるが、本科目では演劇の持つ特有の構造とその効果について、比較的最近の演劇作品とその上演の実例をもとに講ずる。		2024/2/17(土)Ⅳ～Ⅴ講時
制作行為原論Ⅴ	【パーソナルメディア論】 今日、職業的な作家でない個人の制作活動がかつてなく盛んになっている。従来の芸術享受のありかたにとどまらず、コミュニケーションの契機ともなっている映像、音楽、文章の制作やそれを共有する行為の意味を論ずる。		8/27(日)Ⅳ～Ⅴ講時
制作行為原論Ⅵ	【古典文化とその再生】 古典的な物語やキャラクターは時代を経て繰り返しあらたな形で制作の源泉となっている。本科目では古典的な作品が新たな演出や脚色を得てどのような今日的な姿をとるのかという変化と再生のプロセスを講ずる。		8/26(土)Ⅳ～Ⅴ講時

# (10)自由選択(全領域)

科目名	内容	学習の流れ	開講日時／開講期
論文研究基礎	論文執筆にあたって必要な、参考文献の探し方、専門的な辞書類の活用方法や図書館の利用方法など、各自の文献検索に資する情報をガイダンスする。その上でグループ討議などを通じて、先行研究に対する客観的批判力を養う。 ※芸術学・文化遺産領域のみ履修可。	動画視聴＋事前課題提出 ↓ 指定日に受講(1日間) ↓ レポート提出	5/13(土)I～V講時
			6/3(土)I～V講時
			6/4(日)I～V講時
			7/8(土)I～V講時
			7/9(日)I～V講時
			9/9(土)I～V講時
			9/10(日)I～V講時
			9/30(土)I～V講時
			12/23(土)I～V講時
2024/2/17(土)I～V講時			
芸術史講義(日本)1	日本の造形芸術について、その成立から平安時代、鎌倉時代を中心に学ぶ。	動画視聴＋テキスト学習 ↓ 章末テスト ↓ レポート提出 ↓ 全体講評 ※リアルタイムでの受講は不要。	春期(4～6月)・秋期(10～12月)
芸術史講義(日本)2	日本の造形芸術について、近世および近代の絵画・工芸を中心に学ぶ。		夏期(7～9月)・冬期(1～3月)
芸術史講義(日本)3	日本の文学、芸能、音楽の古代から近世に至るまでの流れを辿る。		春期(4～6月)・秋期(10～12月)
芸術史講義(日本)4	江戸時代から明治期に至るまでの文学、歌舞伎、話芸、民俗芸能について学ぶ。		夏期(7～9月)・冬期(1～3月)
芸術史講義(アジア)1	中国の古代から明清時代に至るまでの芸術史を学ぶ。		春期(4～6月)・秋期(10～12月)
芸術史講義(アジア)2	朝鮮半島、西アジア、中央アジア、インドなどアジア各地の芸術史を学ぶ。		夏期(7～9月)・冬期(1～3月)
芸術史講義(アジア)3	中国の文学、音楽、舞台芸術について、古代から19世紀までの流れを学ぶ。		春期(4～6月)・秋期(10～12月)
芸術史講義(アジア)4	朝鮮半島、インド、東南アジアの文学、上演芸術について学ぶ。		夏期(7～9月)・冬期(1～3月)
芸術史講義(ヨーロッパ)1	ヨーロッパの造形芸術の成立から盛期ルネサンスまでの展開を理解する。		春期(4～6月)・秋期(10～12月)
芸術史講義(ヨーロッパ)2	盛期ルネサンスから20世紀はじめまでの造形芸術の歴史を辿る。		夏期(7～9月)・冬期(1～3月)
芸術史講義(ヨーロッパ)3	ヨーロッパの文学、音楽、舞台の歴史を古代ギリシアから18世紀まで辿る。		春期(4～6月)・秋期(10～12月)
芸術史講義(ヨーロッパ)4	18世紀・19世紀のヨーロッパ諸国の上演芸術作品の諸潮流を学ぶ。		夏期(7～9月)・冬期(1～3月)
芸術史講義(近現代)1	20世紀初頭から21世紀まで、特に欧米での造形芸術の流れを学ぶ。		春期(4～6月)・秋期(10～12月)
芸術史講義(近現代)2	アジアやアフリカなどの動向や建築、写真、ファッションなどの歴史を学ぶ。		夏期(7～9月)・冬期(1～3月)
芸術史講義(近現代)3	19世紀末からの文学、舞台芸術の流れを社会の動きとあわせて学ぶ。		春期(4～6月)・秋期(10～12月)
芸術史講義(近現代)4	近現代の欧米とアジアの音楽、映画そしてサブカルチャーの変遷を学ぶ。		夏期(7～9月)・冬期(1～3月)